

**平成25年度
神奈川県産業廃棄物実態調査報告書
(平成24年度実績)**

平成 26 年 2 月

神 奈 川 県

目 次

第1章 調査の概要	1
第1節 調査の目的	1
第2節 調査に関する基本的事項	1
第3節 アンケート調査票の回収結果	5
第2章 調査の結果	6
第1節 結果の概要	6
第2節 排出の状況	8
第3節 再生利用の状況	9
第4節 最終処分の状況	10
第5節 処理・処分の状況	11
第6節 中間処分後廃棄物の県外排出量の状況	12
第7節 県外で排出され、処分を目的として本県へ搬出される廃棄物の状況	12
第8節 経済指標等の状況	13
第9節 データの補正等について	14
<資料集>	15
<アンケート調査票>	18

第1章 調査の概要

第1節 調査の目的

本調査は、産業廃棄物多量排出事業者の実績報告、産業廃棄物処分業者のアンケート調査等を用いて、平成24年度の産業廃棄物の排出及び処理・処分等の状況を推計し、本県の産業廃棄物行政の施策の検討に資することを目的とする。

第2節 調査に関する基本的事項

1. 調査対象期間

平成24年4月1日から平成25年3月31日までの1年間

2. 調査対象廃棄物

調査対象廃棄物は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び同法施行令に定める全ての産業廃棄物・特別管理産業廃棄物とした。

3. 調査対象業種

調査対象業種は、神奈川県産業廃棄物総合実態調査（以下「総合調査」という）の対象業種とした。

表1 調査対象業種

日本標準産業分類	略 称
農業，林業	農業 林業
漁業	漁業
鉱業，採石業，砂利採取業	鉱業
建設業	建設業
製造業	製造業
電気・ガス・熱供給・水道業	電気・ガス・水道業
情報通信業	情報通信業
運輸業，郵便業	運輸業
卸売業，小売業	卸・小売業
医療，福祉	医療・福祉
サービス業（他に分類されないもの）	サービス業

4. 調査対象地域

調査対象地域は、神奈川県内全域とした。

5. 調査方法

(1) 産業廃棄物処分業者へのアンケート調査

県内の産業廃棄物処分業者に対し、平成24年度における産業廃棄物の処理実績について郵送によるアンケート調査を行い、産業廃棄物の処分状況等について把握した。

神奈川県及び横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市（以下、「政令市等」という）で産業廃棄物処分業の許可を持つ全ての処分業者を調査対象とした。

(2) 産業廃棄物の排出量等の推計

産業廃棄物処分業者のアンケート調査（以下「処理実績」という）及び産業廃棄物多量排出事業者の実績報告（以下「実績報告」という）のデータを用いて、平成24年度における神奈川県の産業廃棄物の排出及び処理状況を推計した。

① 排出量

ア 多量排出事業者による実績報告の平成24年度の排出量（業種別・種類別）について、平成21年度の排出量との増減率(A)を算出した。

イ 総合調査（平成21年度実績）の排出量に、この増減率(A)を乗じて平成24年度の排出量（業種別・種類別）を推計した。

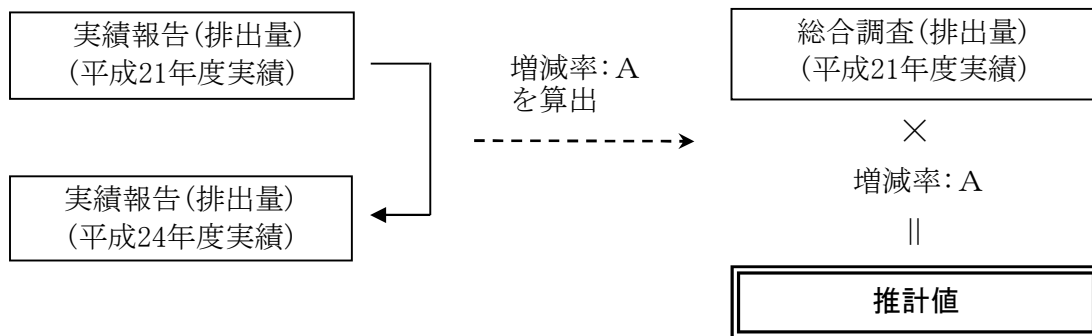


図1 排出量の推計方法

② 委託中間処分量等

○委託中間処分量

委託中間処分量は、県内処分と県外処分に分けて推計した。

県内で処分された委託中間処分量は、県内の産業廃棄物処分業者に対して実施した平成24年度における産業廃棄物の処理実績のアンケート調査結果を用いて種類別に集計した。

県外で処分された委託中間処分量は、排出量の推計で算出した増減率(A)に、総合調査（平成21年度実績）における委託中間処分量を乗じて種類別に推計した。

○自己中間処分量

自己中間処分量は、排出量の推計で算出した増減率(A)に、総合調査(平成21年度実績)における自己中間処分量を乗じて種類別に推計した。

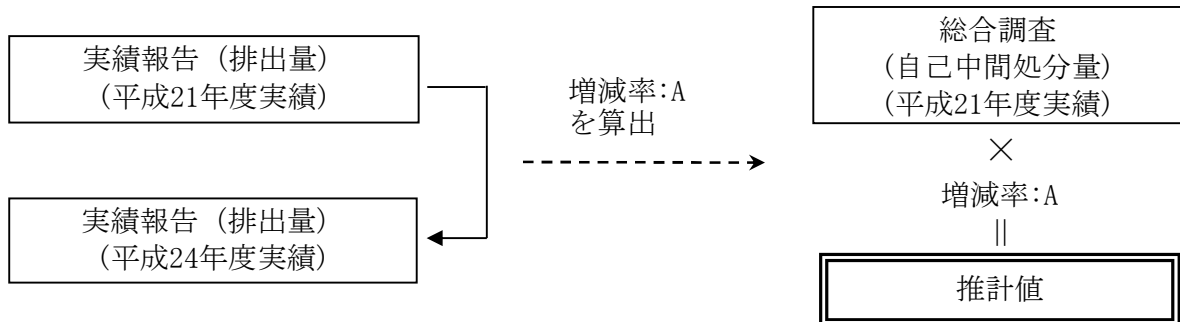


図2 自己中間処分量の推計方法

③ 再生利用量

再生利用量は、自己再生利用量と委託中間処分後再生利用量に分けて推計した。

○自己再生利用量

自己再生利用量は、排出量の推計で算出した増減率(A)に、総合調査(平成21年度実績)における自己再生利用量を乗じて種類別に推計した。

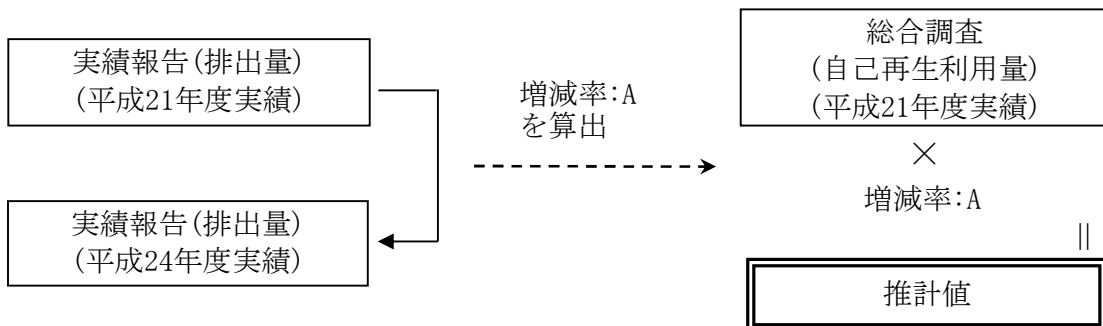


図3 自己再生利用量の推計方法

○委託中間処分後再生利用量

委託中間処分後再生利用量は、排出量の推計で算出した増減率(A)に、総合調査(平成21年度実績)における委託再生利用量を乗じて種類別に推計した。

④ 最終処分量

最終処分量は、埋立処分量と海洋投入処分量に分けて推計した。また、埋立処分量については、自己最終処分量、委託中間処分後最終処分量及び委託直接最終処分量に分けて推計した。

○ 自己最終処分量

自己最終処分量は、排出量の推計で算出した増減率(A)に、総合調査(平成21年度実績)における自己埋立処分量を乗じて種類別に推計した。

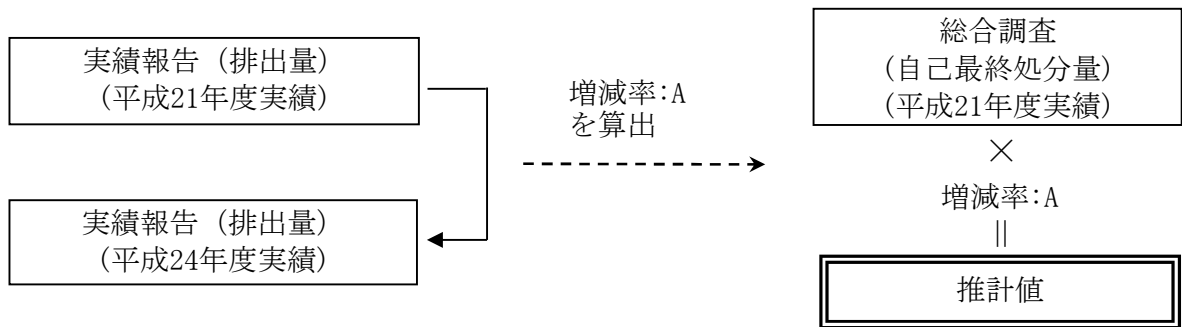


図4 自己最終処分量の推計方法

○ 委託中間処分後最終処分量

委託中間処分後最終処分量は、排出量の推計で算出した増減率(A)に、総合調査(平成21年度実績)における委託中間処分後埋立処分量を乗じて推計した。

○ 委託直接最終処分量

委託直接最終処分量は、排出量の推計で算出した増減率(A)に、総合調査(平成21年度実績)における自己未処理委託直接埋立処分量を乗じて推計した。

○ 海洋投入量

海洋投入処分量は、横浜市及び川崎市に情報提供を依頼し、提供されたデータを用いて集計した。

⑤ 産業廃棄物処分業者による中間処分後廃棄物の搬出先状況

産業廃棄物処分業者による中間処分後に、再度の中間処分及び最終処分目的で、県外に搬出した廃棄物の量を、産業廃棄物処分業者の処理実績をもとに、種類別・搬出先別に集計した。

⑥ 産業廃棄物処分業者の受入状況

産業廃棄物処分業者の受入状況として、中間処分量及び最終処分量を産業廃棄物処分業者の処理実績をもとに、種類別・搬出元別(県外)に集計した。

6. 調査結果の利用上の留意事項

本報告書に記載されている廃棄物量及び構成比(%)の数値は、四捨五入しているために、総数と個々の合計とは一致しないものがある。また、表中の空欄は、1ト以上の該当値がなかったもの、「0」は500トン未満であることを示している。

第3節 アンケート調査票の回収結果

産業廃棄物処分業者に実施したアンケート調査票の回収状況は次のとおりであり、回収率は80.7%であった。

表2 アンケート調査票の発送及び回収状況

発送 事業所数	回収 事業所数	回収率
374件	302件	80.7%

第2章 調査の結果

第1節 結果の概要

平成24年度に県内で発生した産業廃棄物の排出量は1,847万トンであり、再生利用量が824万トン(排出量の45%)、減量化量が897万トン、最終処分量が127万トン(同7%)となっている。

平成23年度と比較すると、排出量は7万トン減少し、再生利用率は3ポイント増加、最終処分量は6万トン減少した。

排出量については、建設業から排出される汚泥及びがれき類が増加(汚泥+15万トン、がれき類+63万トン)し、製造業及び鉱業から排出される汚泥が減少(製造業-44万トン、鉱業-13万トン)した。

また、業種別では、建設業の排出量が増加(+80万トン)し、製造業及び鉱業の排出量は減少(製造業-69万トン、鉱業-14万トン)した。その結果、全体としては、7万トンの減少となった。

再生利用率については、木くず及びガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くずの再生利用率が上昇(木くず+8ポイント、ガラスくず+3ポイント)したことで、全体の再生利用率が増加した。また、再生利用率の低い汚泥の排出量が減少したことも再生利用率が増加した一因と推測される。

最終処分量については、製造業が排出する汚泥(赤泥)の海洋投入量が減少したことにより、最終処分量全体が減少した。(赤泥23年度:46万トン→24年度:38万トン)

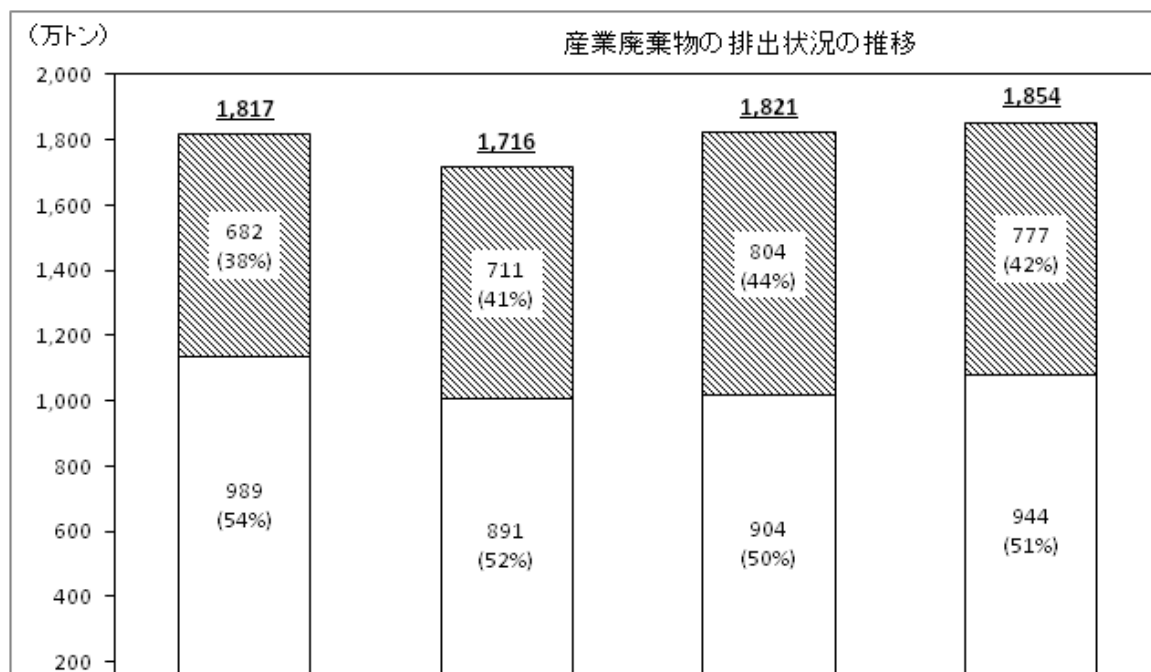


図5 産業廃棄物の排出状況の推移

表3 産業廃棄物の排出状況の推移

(万トン)

	排出量			
	再生利用量	減量化量	最終処分量	
平成18年度	682 (38%)	989 (54%)	146 (8%)	
平成21年度	711 (41%)	891 (52%)	114 (7%)	
平成22年度	804 (44%)	904 (50%)	113 (6%)	
平成23年度	777 (42%)	944 (51%)	133 (7%)	
平成24年度	824 (45%)	897 (49%)	127 (7%)	
増減量	3	△ 47	△ 6	

注) 増減量は平成24年度から平成23年度の差分

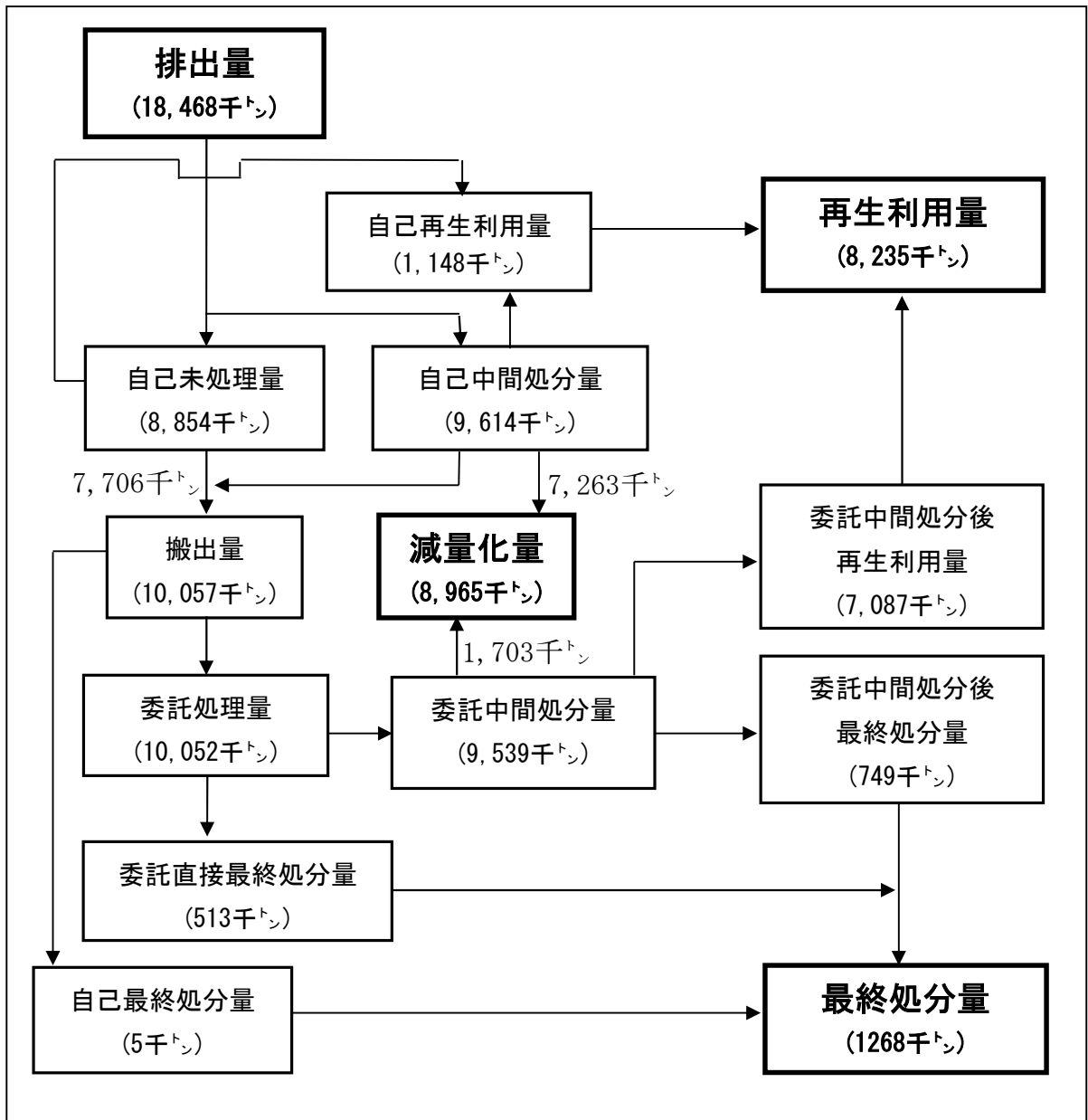


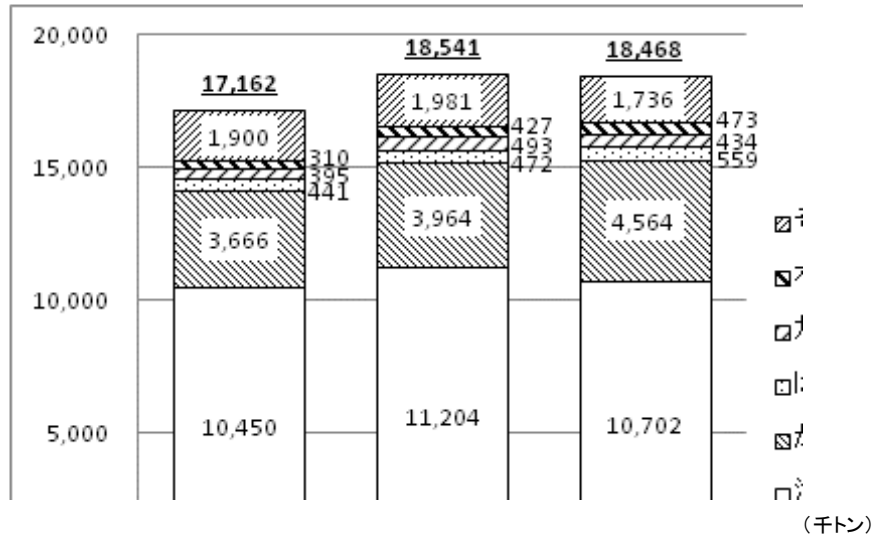
図6 処理状況の流れ図

第2節 排出の状況

平成24年度の排出量は18,468千トンであり、平成23年度より73千トン減少している。

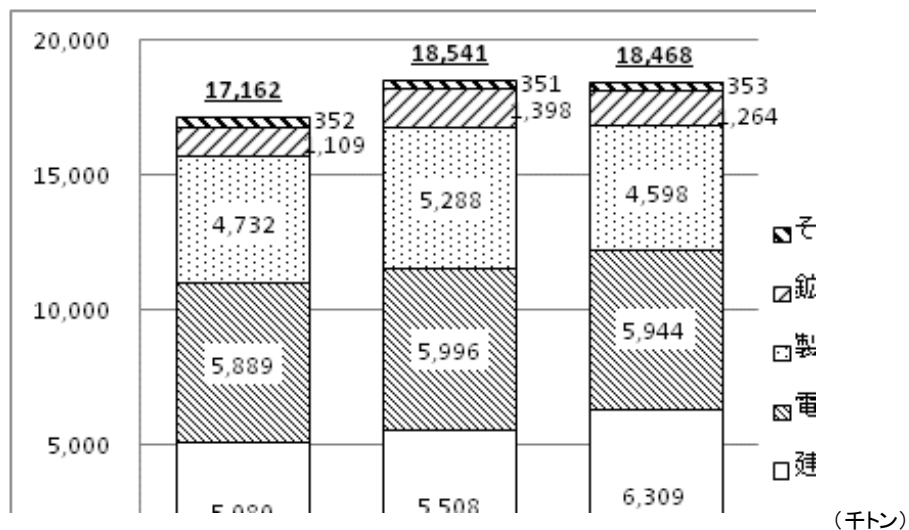
排出量を種類別にみると、汚泥が10,702千トン（排出量の57.9%）で最も多く、次いでがれき類が4,564千トン（同24.7%）、ばいじんが559千トン（同3.0%）等となっている。

排出量を業種別にみると、建設業が6,309千トン（排出量の34.2%）で最も多く、次いで電気・ガス・水道業が5,944千トン（同32.2%）、製造業が4,598千トン（同24.9%）等となっている。



	平成21年度	平成23年度	平成24年度
汚泥	10,450 (60.9%)	11,204 (60.4%)	10,702 (57.9%)
がれき類	3,666 (21.4%)	3,964 (21.4%)	4,564 (24.7%)
ばいじん	441 (2.6%)	472 (2.5%)	559 (3.0%)
木くず	310 (1.8%)	427 (2.3%)	473 (2.6%)
ガラス陶磁器くず	395 (2.3%)	493 (2.7%)	434 (2.4%)
その他	1,900 (11.0%)	1,981 (10.7%)	1,736 (9.4%)
合計	17,162 (100.0%)	18,541 (100.0%)	18,468 (100.0%)

図7 種類別の排出量の推移



	平成21年度	平成23年度	平成24年度
建設業	5,080 (29.6%)	5,508 (29.7%)	6,309 (34.2%)
電気・ガス・水道業	5,889 (34.3%)	5,996 (32.3%)	5,944 (32.2%)
製造業	4,732 (27.6%)	5,288 (28.5%)	4,598 (24.9%)
鉱業	1,109 (6.5%)	1,398 (7.5%)	1,264 (6.8%)
その他	352 (2.0%)	351 (1.9%)	353 (1.9%)
合計	17,162 (100.0%)	18,541 (100.0%)	18,468 (100.0%)

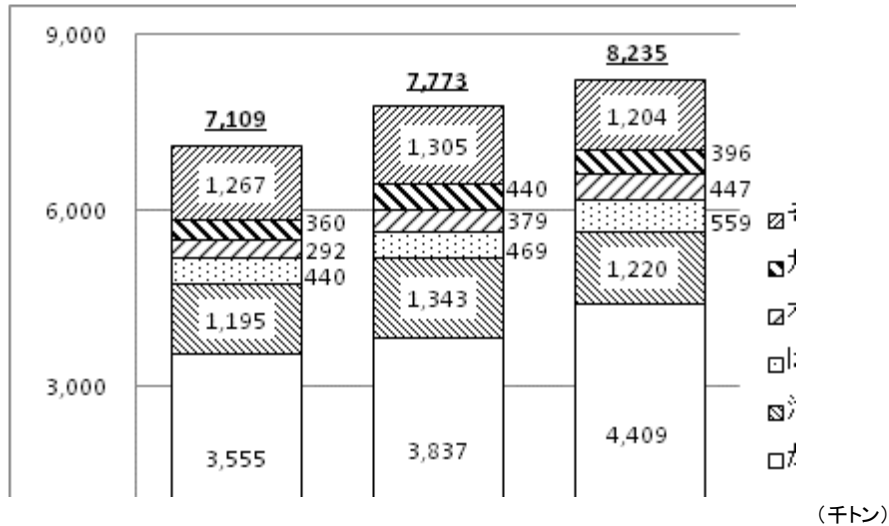
図8 業種別の排出量の推移

第3節 再生利用の状況

平成24年度の再生利用量は8,235千トンであり、平成23年度より462千トン増加している。

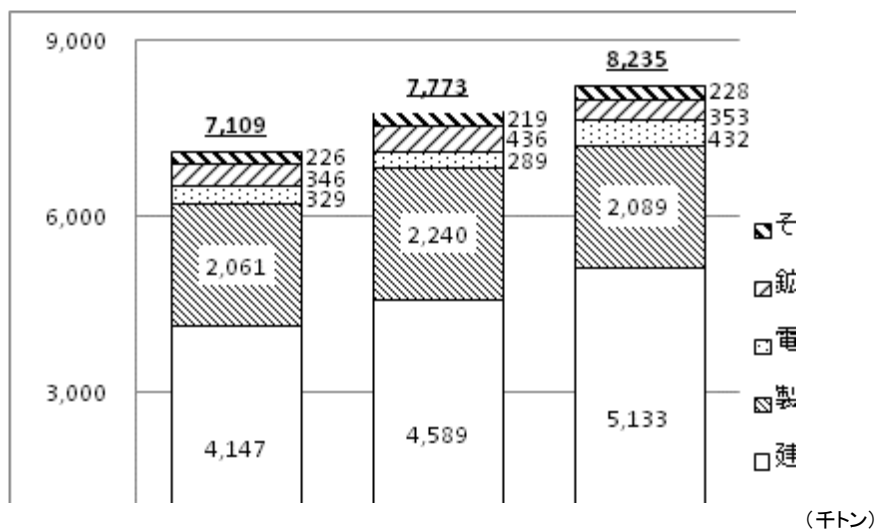
再生利用量を種類別にみると、がれき類が4,409千トン（再生利用量の53.5%）で最も多く、次いで汚泥が1,220千トン（同14.8%）、ばいじんが559千トン（同6.8%）等となっている。

再生利用量を業種別にみると、建設業が5,133千トン（再生利用量の62.3%）で最も多く、次いで製造業が2,089千トン（同25.4%）、電気・ガス・水道業が432千トン（同5.2%）等となっている。



	平成21年度	平成23年度	平成24年度
がれき類	3,555 (50.0%)	3,837 (49.4%)	4,409 (53.5%)
汚泥	1,195 (16.8%)	1,343 (17.3%)	1,220 (14.8%)
ばいじん	440 (6.2%)	469 (6.0%)	559 (6.8%)
木くず	292 (4.1%)	379 (4.9%)	447 (5.4%)
ガラス陶磁器くず	360 (5.1%)	440 (5.7%)	396 (4.8%)
その他	1,267 (17.8%)	1,305 (16.8%)	1,204 (14.6%)
合計	7,109 (100.0%)	7,773 (100.0%)	8,235 (100.0%)

図9 種類別の再生利用量の推移



	平成21年度	平成23年度	平成24年度
建設業	4,147 (58.3%)	4,589 (59.0%)	5,133 (62.3%)
製造業	2,061 (29.0%)	2,240 (28.8%)	2,089 (25.4%)
電気・ガス・水道業	329 (4.6%)	289 (3.7%)	432 (5.2%)
鉱業	346 (4.9%)	436 (5.6%)	353 (4.3%)
その他	226 (3.2%)	219 (2.8%)	228 (2.8%)
合計	7,109 (100.0%)	7,773 (100.0%)	8,235 (100.0%)

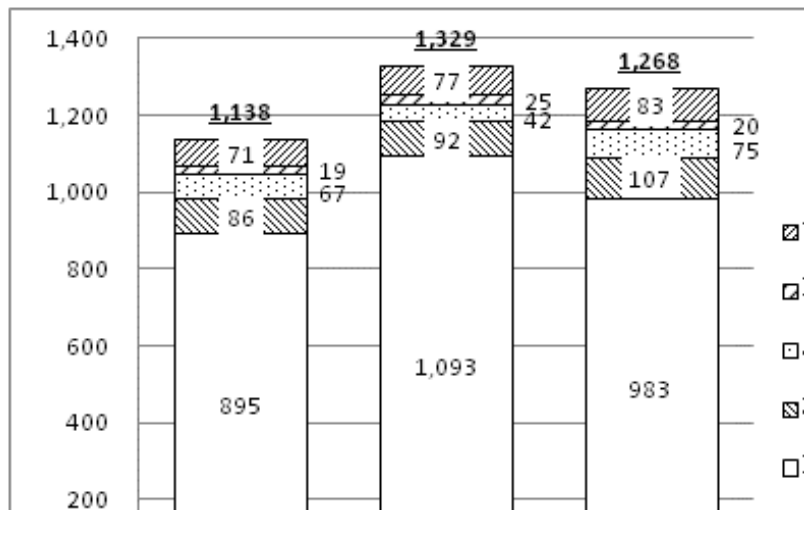
図10 業種別の再生利用量の推移

第4節 最終処分の状況

平成24年度の最終処分量は1,268千トンであり、平成23年度より61千トン減少している。

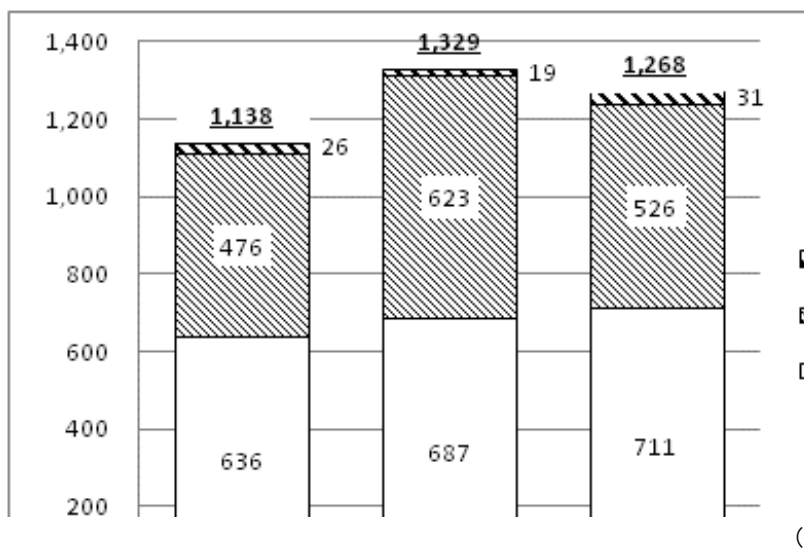
最終処分量を種類別にみると、汚泥が983千トン（最終処分量の77.5%）で最も多く、次いでがれき類が107千トン（同8.4%）、廃プラスチック類が75千トン（同5.9%）等となっている。

最終処分量を業種別にみると、建設業が711千トン（最終処分量の56.1%）で最も多く、次いで製造業が526千トン（同41.5%）等となっている。



	平成21年度	平成23年度	平成24年度
汚泥	895 (78.7%)	1,093 (82.2%)	983 (77.5%)
がれき類	86 (7.5%)	92 (6.9%)	107 (8.4%)
廃プラスチック類	67 (5.9%)	42 (3.2%)	75 (5.9%)
ガラス陶磁器くず	19 (1.7%)	25 (1.9%)	20 (1.6%)
その他	71 (6.2%)	77 (5.8%)	83 (6.5%)
合計	1,138 (100.0%)	1,329 (100.0%)	1,268 (100.0%)

図11 種類別の最終処分量の推移

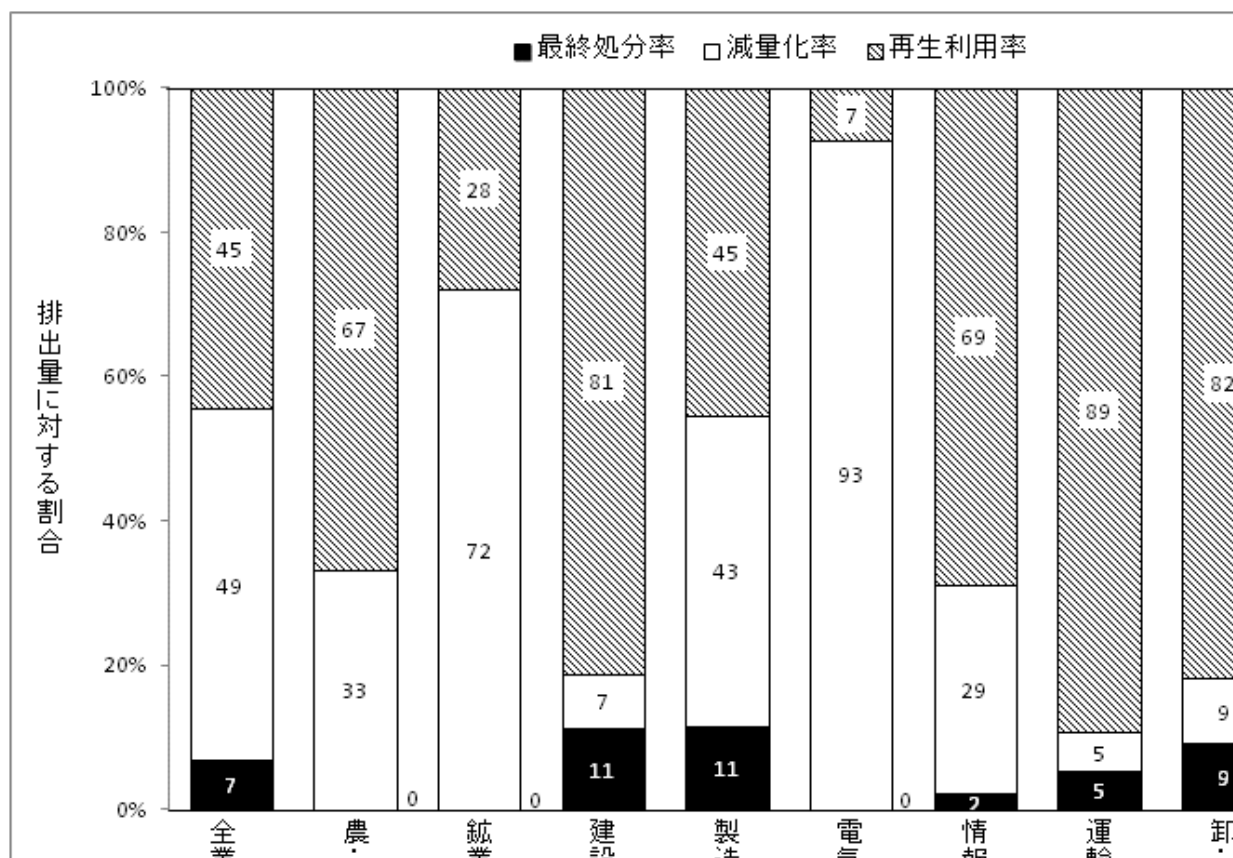


	平成21年度	平成23年度	平成24年度
建設業	636 (55.9%)	687 (51.7%)	711 (56.1%)
製造業	476 (41.9%)	623 (46.9%)	526 (41.5%)
その他	26 (2.2%)	19 (1.4%)	31 (2.4%)
合計	1,138 (100.0%)	1,329 (100.0%)	1,268 (100.0%)

図12 業種別の最終処分量の推移

第5節 処理・処分の状況

排出量に対する再生利用量、減量化量、最終処分量の構成比を業種別にみると、次のとおりである。



業種 (千t/年)	全業種	農・林・漁業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	医療・福祉	サービス業
排出量	18,468	205	1,264	6,309	4,598	5,944	0	19	55	46	28
再生利用量	8,235	137	353	5,133	2,089	432	0	17	45	11	21
減量化量	8,965	68	911	465	1,983	5,506	0	1	5	23	5
最終処分量	1,268	0		711	526	6	0	1	5	12	2

図13 業種別の排出量に対する再生利用量、減量化量、最終処分量の構成比

注) 表中の空欄は、1ト以上の該当値がなかったもの、「0」は500ト未満であることを示している（5ページ「6. 調査結果の利用上の留意事項」のとおり）。

なお、情報通信業は、排出量が500ト未満であり、再生利用等の構成比は総合実態調査のデータを基に図に示してある。

第6節 中間処分後廃棄物の県外排出量の状況

県内で排出された産業廃棄物のうち、県内の中間処分業者処分した後、県外において再度の中間処分及び最終処分をした場合の県外搬出量を、処分業者のアンケート調査の結果をもとに種類別・搬出先別に集計したところ、その結果は次のとおりであった。

種類	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	
搬出先	①	茨城県	山口県	千葉県	福島県	埼玉県	千葉県	静岡県	北海道
	②	愛知県	高知県	広島県	愛知県	茨城県	秋田県	埼玉県	静岡県
	③	宮城県	北海道	埼玉県	—	福島県	愛知県	千葉県	埼玉県

種類	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず	鉱さい	がれき類	ばいじん	
搬出先	①	埼玉県	愛知県	秋田県	福島県	千葉県	千葉県	千葉県	長野県
	②	静岡県	宮城県	—	千葉県	栃木県	愛知県	栃木県	愛知県
	③	秋田県	千葉県	—	岡山県	群馬県	—	東京都	宮城県

第7節 県外で排出され、処分を目的として本県へ搬入される廃棄物の状況

県内の産業廃棄物処分業者における県外からの受入状況（中間処分量及び最終処分量）を、種類別・受入元別に集計したところ、その結果は次のとおりであった。

（1）中間処分量

種類	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず
搬出元	①	東京都	東京都	東京都	東京都	千葉県	東京都	東京都
	②	滋賀県	埼玉県	静岡県	千葉県	埼玉県	埼玉県	大阪府
	③	千葉県	静岡県	埼玉県	埼玉県	東京都	千葉県	千葉県

種類	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず	鉱さい	がれき類	動物のふん尿	ばいじん
搬出元	①	東京都	東京都	山梨県	東京都	東京都	埼玉県	東京都	東京都
	②	埼玉県	千葉県	—	埼玉県	福井県	福島県	埼玉県	—
	③	千葉県	埼玉県	—	千葉県	静岡県	千葉県	千葉県	—

（2）最終処分量

種類	汚泥	ガラスくず	がれき類	廃石綿
搬出元	①	東京都	東京都	東京都
	②	山梨県	—	—
	③	静岡県	—	—

第8節 経済指標等の状況

産業廃棄物の排出量と関連のある経済指標等の状況は次のとおりである。

平成23年度と平成24年度についてみると、建設業の指標である建築着工床面積及びは製造業の指標である工業生産指数は共に減少している。本調査の推計結果と比較すると、産業廃棄物の排出量は、建設業が増加し、製造業が減少しており、指標とは一致しない部分がある。

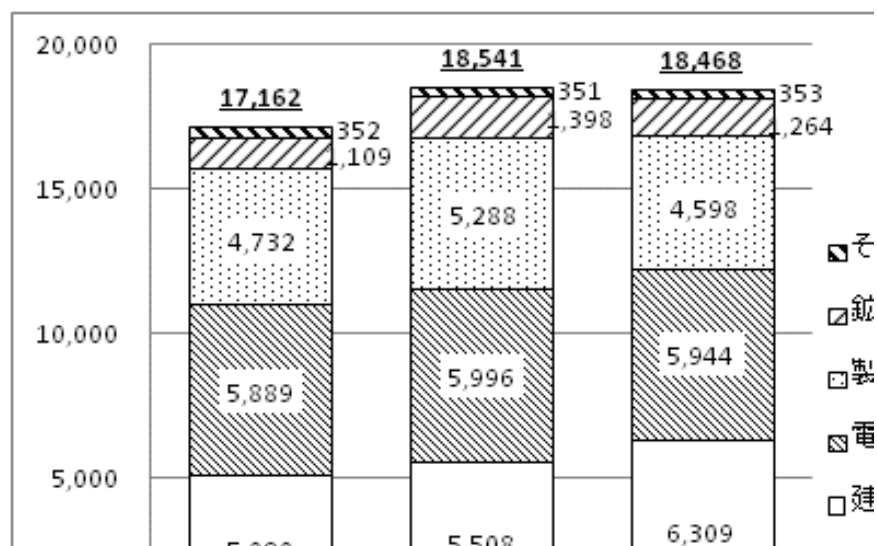
建設業から排出される産業廃棄物は、建築工事（着工）より解体工事の量が多いこと、また、道路工事からも多量に排出されるなどの理由から、建築着工床面積だけでは建設業の産業廃棄物の増減を説明するのは難しいと思われる。

また、製造業の指数である工業生産指数は年度ではなく暦年の統計のため、本調査の対象期間と時期がずれており、製造業の産業廃棄物の増減とは必ずしも一致しない可能性がある。

表4 経済指標等の状況

業種	指標	H21	H23	H24	資料
建設業	建築着工床面積 (千m ²)	7,866	9,365	8,849	神奈川県内建築着工統計
製造業	製造品出荷額等 (億円)	148,684	178,506	174,693	神奈川県工業統計調査結果
	工業生産指数 (H22=100)	88.9	95.3	93.6	神奈川県工業生産指数年報

※製造品出荷額等と工業生産指数は、年度ではなく暦年の値。



(再掲) 図8 業種別の排出量の推移

第9節 データの補正等について

1. データの整備

多量排出事業者からの実績報告は排出量により任意となることから、推計の根拠となる平成21年度及び平成24年度のどちらか一方のみの報告となる場合がある。この場合には、提出された一方の実績報告を両年度の実績報告として取扱うことで、データを整備した。

2. 実績報告の増減率

推計に用いた平成21年度から平成24年度の増減率は次のとおりである。

なお、実績報告には、農業、林業、漁業、情報通信業における多量排出事業者が存在しないことから、当該業種の事業所データは含まれていない。よって、増減率は「1」とした。

また、量が少ない廃棄物や排出頻度が低い廃棄物は増減率の変動が大きくなる傾向がある。建設業から排出される燃え殻や廃酸、製造業から排出されるゴムくずなど排出頻度が低い廃棄物は、増減率の変動が大きくなっているが、排出量が微量であるため推計量に影響を与えていない。

表5 増減率

	合計	農業	林業	漁業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	医療・福祉	サービス業
燃え殻	1.79	1				24.4	0.78	1.85		1			1
汚泥	1.02	1			1.14	1.11	0.98	1.01		1	1	1.41	0.92
廃油	0.81			1	1	0.82	0.8	0.67		1	1	1.04	1.06
廃酸	0.82					0.64	0.82	23.6	1		1	0.58	0.81
廃アルカリ	1.15					2.36	1.16	1.14	1	1	1	7.82	1.05
廃プラスチック類	1.11	1		1		1.32	1	1.65	1	1	1	1.53	0.94
紙くず	0.35					1.37	0.26		1				
木くず	1.53					1.63	1.18	1.12		1	1	0.5	0.37
繊維くず	1					0.93	1						
動植物性残さ	0.94						0.94						
動物系固形不要物	1												1
ゴムくず	1				1	1	0.19			1	1		
金属くず	0.84	1				1.72	0.66	0.96		1	1	1.95	0.45
ガラス陶磁器くず	1.1	1				1.07	1.12	0.69		1	1	2.14	0.54
鉱さい	1.06					1.62	1.06	1					1
がれき類	1.24					1.25	0.97	0.83		1	1	1	1.43
ばいじん	1.27						1.62	0.87				1	1
動物のふん尿	1	1											
動物の死体	1	1											
その他の産業廃棄物	0.66		1			0.04	0.2	0.89		1	1	0.97	0.57

一方、製造業から排出される紙くず及びばいじんは、排出量が多い廃棄物であることから、実績報告において排出量の変動が大きかった事業者に対して聞き取りを行ったところ、その結果は次のとおりであった。

業種	廃棄物の種類	事業者名	増減率	理由
製造業	紙くず	株式会社DNPテクノパック横浜	0.06倍 (5千ト→300ト)	焼却炉を廃止にしたことに伴い、廃棄物の有価物化を進めたため
	ばいじん	JFEスチール株式会社東日本製鉄所	1.6倍 (21万ト→34万ト)	事業規模及び受注量の増加のため

< 資 料 集 >

<資料集>

1. 排出量	15
2. 再生利用量	15
3. 最終処分量	16
4. 海洋投入量	16
5. その他	17

1. 排出量

排出量(業種別・種類別) <平成24年度>

(単位:千t/年)

	合計	農業	林業	漁業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	医療・福祉	サービス業
合計	18,468	205	0	0	1,264	6,309	4,598	5,944	0	19	55	46	28
燃え殻	61	0				0	2	59		0			0
汚泥	10,702	0			1,264	966	2,763	5,695		2	4	1	7
廃油	164			0	0	16	135	2		1	7	0	3
廃酸	162					0	161	0	0		0	0	1
廃アルカリ	166					0	162	2	0	0	1	0	1
廃プラスチック類	322	0		0		117	157	0	0	6	25	12	5
紙くず	55					18	37		0				
木くず	473					394	74	0		4	1	0	0
繊維くず	4					4	0						
動植物性残さ	91						91						
動物系固形不要物	7												7
ゴムくず	0				0	0	0			0	0		
金属くず	287	0			0	88	179	0		4	10	4	2
ガラス陶磁器くず	434	0				201	227	1		0	1	3	1
鉱さい	175					0	175	0					0
がれき類	4,564					4,505	55	2		1	1	0	0
ばいじん	559						376	183				0	0
動物のふん尿	196	196											
動物の死体	8	8											
その他の産業廃棄物	37		0			0	4	0		1	5	26	1

2. 再生利用量

再生利用量(業種別・種類別) <平成24年度>

(単位:千t/年)

	合計	農業	林業	漁業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	医療・福祉	サービス業
合計	8,235	137	0	0	353	5,133	2,089	432	0	17	45	11	21
燃え殻	202	2				32	57	104	0	0	2	5	2
汚泥	1,220				353	99	705	60		0	1	1	1
廃油	64				0	4	51	1		1	6	0	2
廃酸	15					0	15	0			0	0	0
廃アルカリ	13					0	12				0	0	0
廃プラスチック類	186	0		0		52	99	0	0	6	25	2	3
紙くず	52					4	48		0				
木くず	447					353	87	0		6	0	0	0
繊維くず	4					4	0						
動植物性残さ	66						66						
動物系固形不要物	7												7
ゴムくず	0				0	0	0			0			
金属くず	282	0			0	43	225	0		3	7	1	4
ガラス陶磁器くず	396	0				190	202	0		0	1	0	1
鉱さい	158					0	158	0					
がれき類	4,409					4,351	56	0		1	1	0	0
ばいじん	559						293	267				0	
動物のふん尿	130	130											
動物の死体	5	5											
その他の産業廃棄物	20	0				1	15	0		0	2	2	1

3. 最終処分量

最終処分量(業種別・種類別) <平成24年度>

(単位:千t/年)

	合計	農業	林業	漁業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	医療・福祉	サービス業
合計	1,268	0	0			711	526	6	0	1	5	12	2
燃え殻	36					5	21	2	0	0	0	7	0
汚泥	983					561	391	0		0	1	0	0
廃油													
廃酸													
廃アルカリ													
廃プラスチック類	75	0				41	26	0		1	2	2	2
紙くず	0					0	0						
木くず	8					3	3	0		0	0		0
繊維くず	0					0	0						
動植物性残さ	1						1						
動物系固形不要物	0												0
ゴムくず	0					0	0						
金属くず	6					0	3	0		0	2	1	0
ガラス陶磁器くず	20					14	7	0		0	0	0	0
鉱さい	17						17						0
がれき類	107					87	15	4		0	0	0	0
ばいじん	1						1						0
動物のふん尿													
動物の死体													
その他の産業廃棄物	14		0			0	11	0		0	0	2	0

4. 海洋投入量

海洋投入量(業種別・種類別) <平成24年度>

(単位:千t/年)

	合計	農業	林業	漁業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	医療・福祉	サービス業
合計	934					557	377						
燃え殻													
汚泥	934					557	377						
廃油													
廃酸													
廃アルカリ													
廃プラスチック類													
紙くず													
木くず													
繊維くず													
動植物性残さ													
動物系固形不要物													
ゴムくず													
金属くず													
ガラス陶磁器くず													
鉱さい													
がれき類													
ばいじん													
動物のふん尿													
動物の死体													
その他の産業廃棄物													

5. その他

<平成24年度>

(単位:千t/年)

	自己再生 利用量	自己中間 処分量	委託中間処 分量(県内)	委託中間処 分量(県外)	委託中間 処分後再生 利用量	委託中間 処分後最終 処分量	委託直接 最終処分量	自己最終 処分量
合計	1,148	9,614	8,238	1,300	7,087	749	513	5
燃え殻	14		11	73	188	30	4	2
汚泥	593	9,126	1,254	309	627	528	451	3
廃油	1	44	39	62	63			
廃酸	0	109	22	29	15			
廃アルカリ	1	67	41	53	12			
廃プラスチック類	4	16	477	62	182	68	7	
紙くず	2	4	34	4	50	0	0	
木くず		8	466	64	447	6	2	
繊維くず		0	9	1	4	0	0	
動植物性残さ		1	23	41	66	1	0	
動物系固形不要物				7	7	0		
ゴムくず		0	1	0	0	0	0	
金属くず	48	44	237	28	234	3	3	
ガラス陶磁器くず	13	63	208	74	383	15	5	
鋳さい	152		7	3	6	0	17	
がれき類	58	78	5,382	161	4,351	86	21	
ばいじん	229	0	14	315	330	1	0	
動物のふん尿	32	50	0		98			
動物の死体	1	3		5	4			
その他の産業廃棄物	0	1	14	9	20	11	3	

< アンケート調査票 >